1 漢文入門

単元のねらい

◆格言や短い漢文を読み、漢文の世界に親しむ。
◆訓読のきまりや熟語の構造を理解するとともに、文章の内容をその叙述に即して的確に読み取る。
◆故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを理解する。
・訓点の施された漢文を読む上で基本となる技術を習得し、スムーズに読めるようにする。
・過去から現代に至る言語文化の流れのなかで漢文の果たしている役割を知り、漢文が日本語の礎をなしていることを理解する。
・漢文のもつ簡潔で力強い文体に触れ、現代日本語において漢語が果たしている役割を知る。

単元の構成

本単元は、「なぜ漢文を学ぶのか」「訓読の世界」「故事成語」という三パートから成立する単元である。まず前半では、漢文学習全体の導入として、編集委員による書き下ろしの文章「なぜ漢文を学ぶのか」を配置し、漢文を巡る文化的背景と漢文訓読の基本的な考え方について解説した。

続く「訓読の世界」では、送り仮名と句読点・返り点・助字（返読文字・置き字・再読文字）について、その概要をコンパクトに示した解説文と実例を併記し、訓点練習が十分に行えるよう配慮した。これらの例文は、故事成語または慣用的な言い回しとして人口に膾炙してきたものから選択した。訓点練習の素材

としてだけではなく、伝統的言語文化の実例として、内容についてもある程度の説明を加えていただけると幸いである。

「漢和辞典の使い方」では漢字の読み方の種類、読み方による意味の違いなど、漢文読解に役立つ漢和辞典の活用方法を具体的に示した。熟語の構造を考えさせることを主題とした「単元の言語活動１」とからめて、漢字の多義性、語順により意味が確定すること、二字が組み合わさり熟語となることで意味が安定することを楽しみながら生徒自身に体験してもらえるとよいだろう。

後半の「故事成語」では、前半で学んだ訓読の技術を確認しながら読み進められるよう、ある程度まとまりのある文章として、「蛇足」「朝三暮四」「断腸」の三編を配置した。とくに「蛇足」と「朝三暮四」の二編はそこにこめられた寓意について発展的に取り上げることも可能であり、その場合には漢文の窓１「中国の寓話」を大いに役立てていただきたい。また、漢文の窓２「現在も使われる故事成語」では、故事成語が使用語彙として世の中の言語活動に登場する実例に触れることで、故事成語を我が国の言語文化の一つとして捉えやすくなるだろう。さらには生徒を取り巻く環境の中に表れる故事成語を探し、故事成語の効果的な使用方法について考えるきっかけとして活用いただきたい。単元の言語活動２「故事成語を『五・七・五』で表現する」では、学んだ内容を「五・七・五」で表現する活動を提示した。